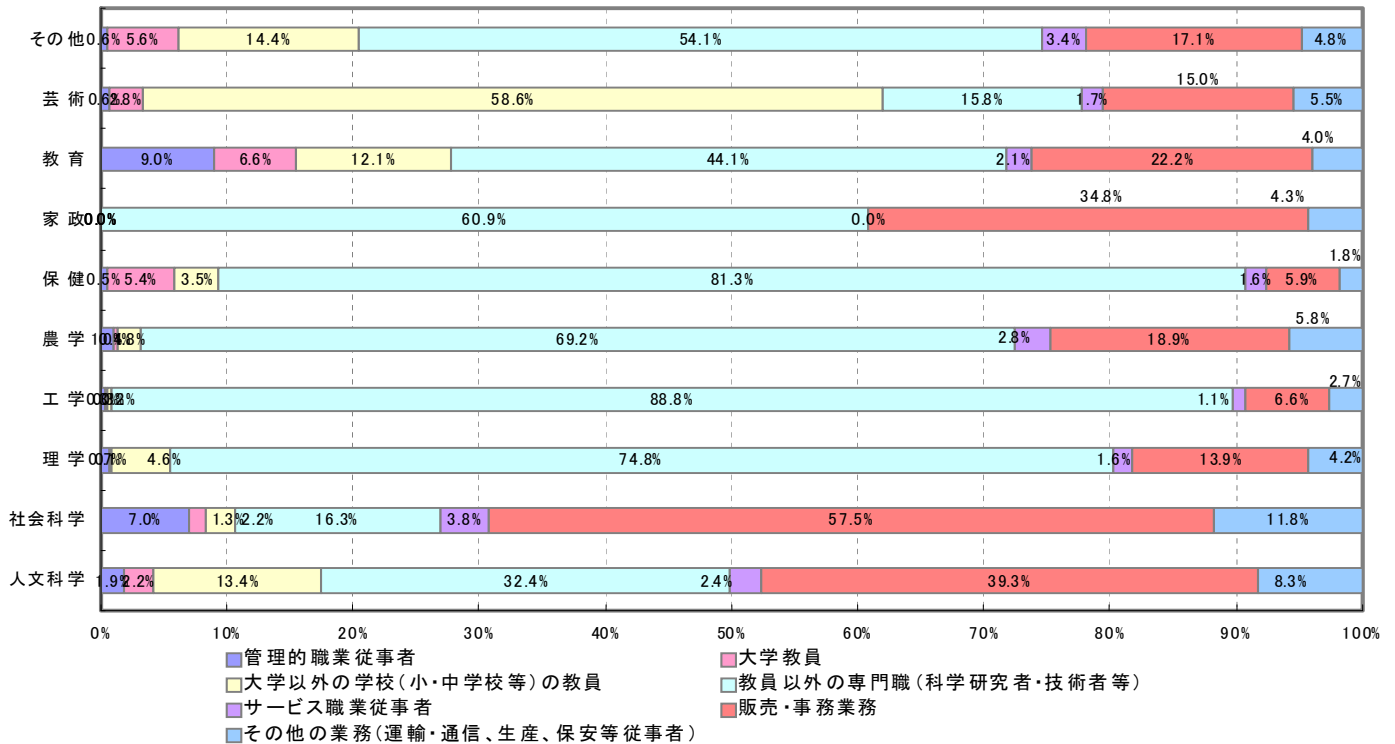


図表23 修士課程修了後の就職先（分野別・職業別）

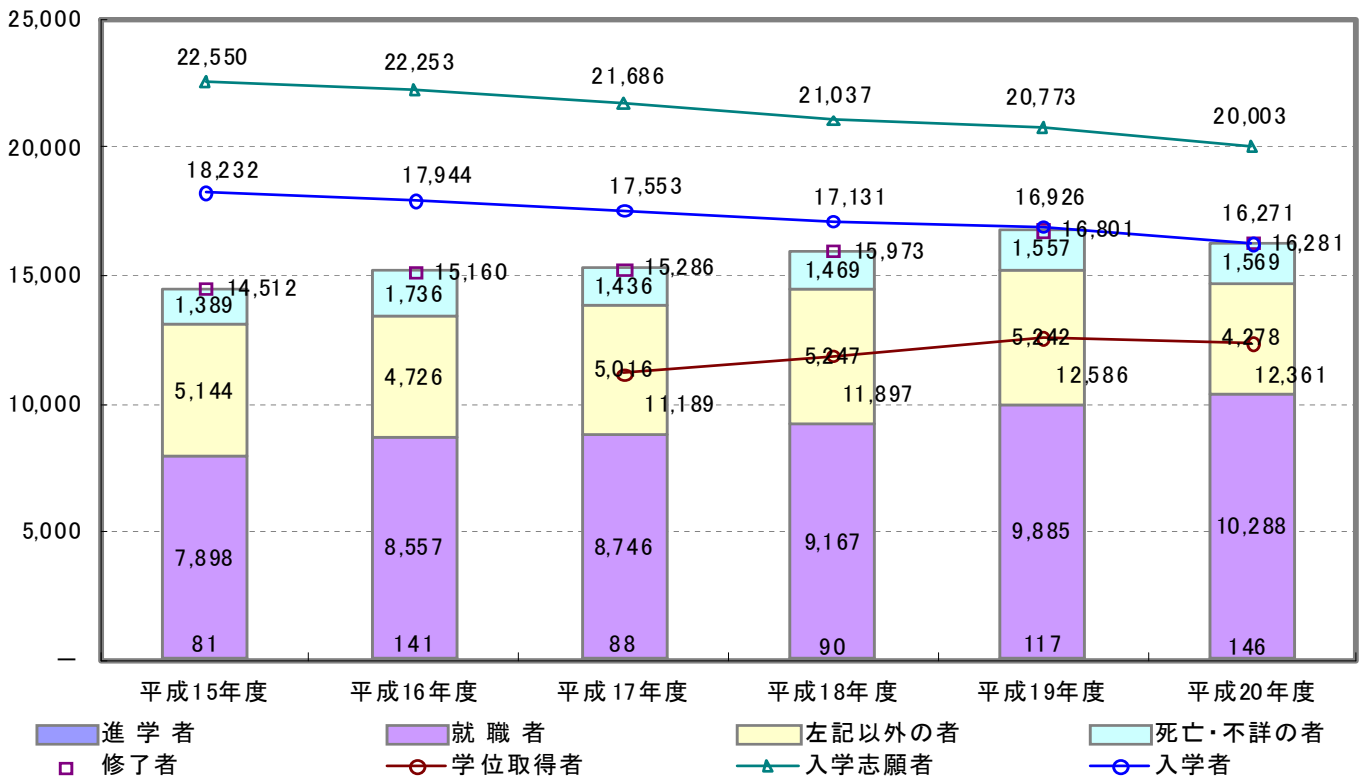
理工農、保健分野においては博士課程修了後、技術者等として専門的・技術的職業に従事する者の割合が高く、人社系分野においては販売・事務業務に従事する者の割合が高い。



※ 専門的・技術的職業従事者には、教員、科学研究者、技術者、その他専門職を含む。
 ※ 満期退学者を含む。

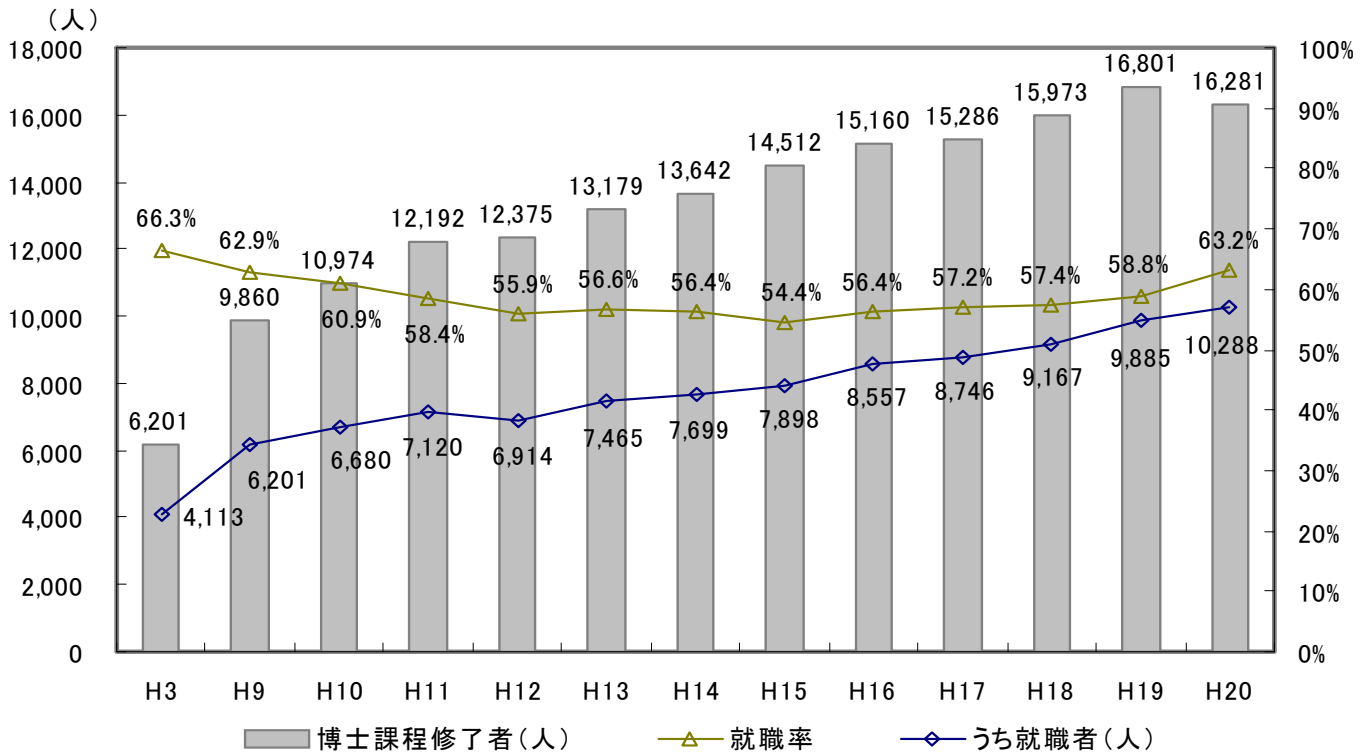
(出典) 「平成20年度学校基本調査」(文部科学省)

図表24 博士課程への入学志願者、入学者、修了者の推移



(出典: 文部科学省「学校基本調査」)

図表25 博士課程修了者数及び就職者数の推移（全体）

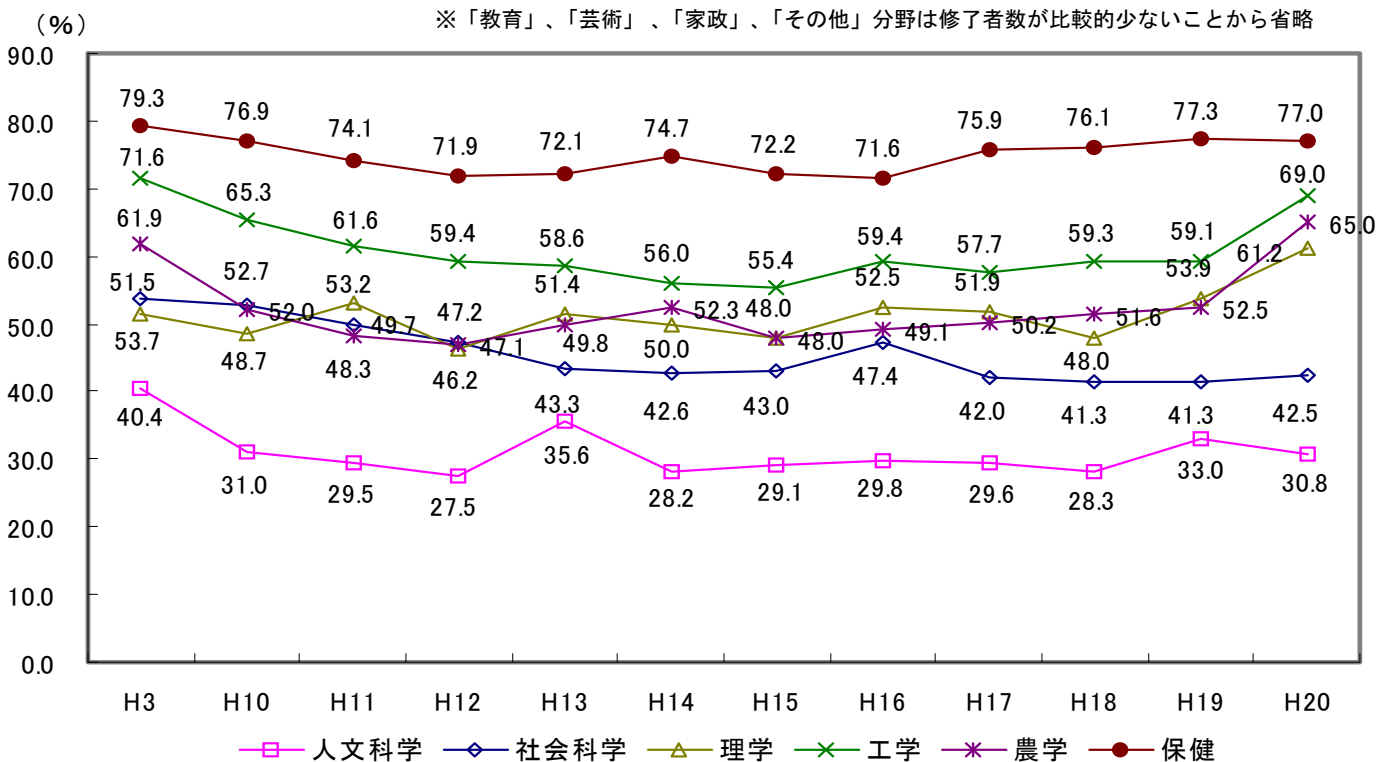


(注) ・博士課程修了者には、所定の単位を修得し、学位を取得せずに満期退学した者を含む
 ・就職者とは、給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いた者をいう

(出典：文部科学省「学校基本調査」)

図表26 博士課程修了者の就職率の推移（分野別）

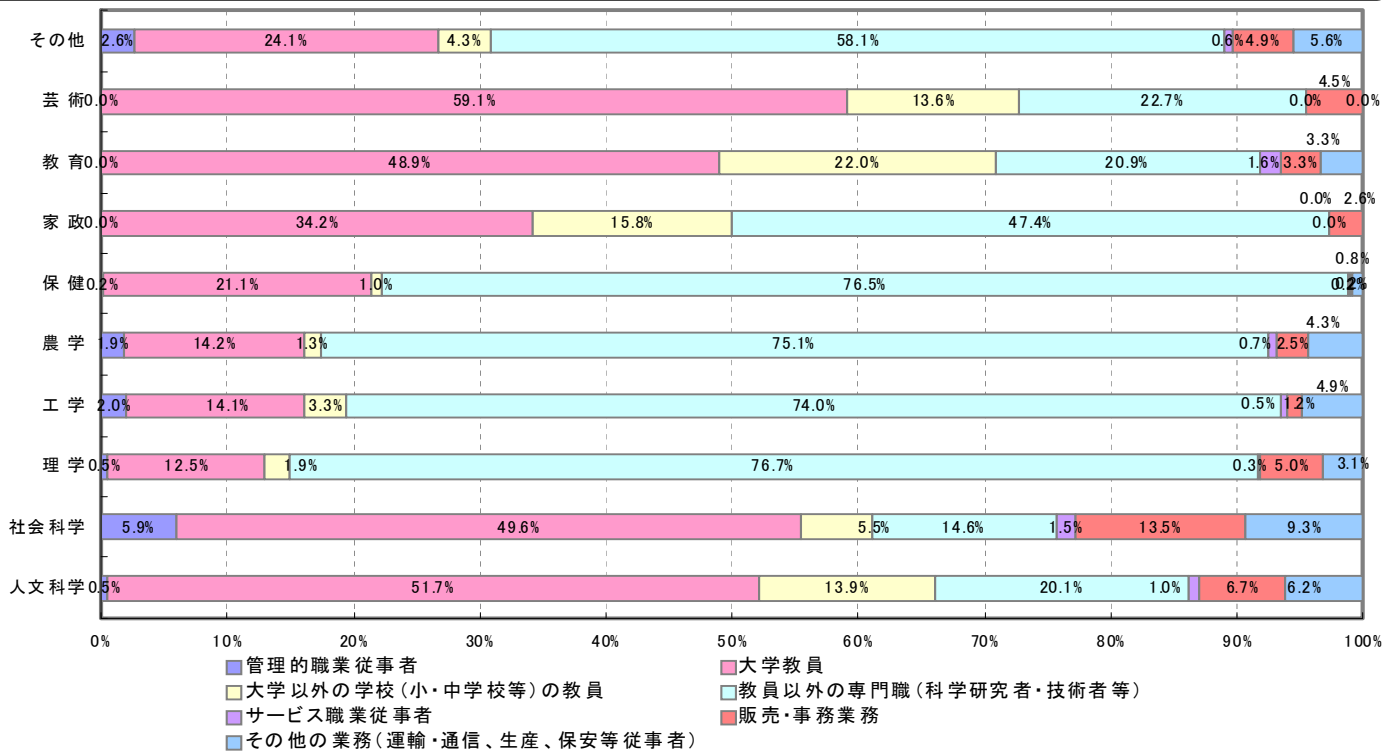
「人文科学」、「社会科学」分野の就職率が他の分野と比較して低い状況は、近年継続して見られる傾向。



(出典：文部科学省「学校基本調査」) 22

図表27 博士課程修了後の就職先（分野別・職業別）

理工農・保健分野においては博士課程修了後、大学教員以外の専門的・技術的職業に従事する者の割合が高く、人社系分野においては大学以外も含めて教員になる者の割合が高い。



※ 専門的・技術的職業従事者には、教員、科学研究者、技術者、その他専門職を含む。

※ 満期退学者を含む。

(出典) 「平成20年度学校基本調査」(文部科学省)

具体的な教育プログラムの例

○ 東京農工大学「科学立国人材育成プログラム」

生命工学専攻、応用化学専攻、電子情報工学専攻の3専攻の修士1年生から優れた学生を選抜し、修士2年生から博士0年生として、4年一貫教育によるドクター取得カリキュラムを実践。

科学日本語特論: 研究活動全般に必要なとされる論理的思考能力を養成。(修士1年)

科学英語特論: 海外派遣に耐えうる実践的な英語力を強化(博士0年)

グラントプロポーザル: 論理的な思考能力の強化のためのプレゼンテーション、プロポーザルライティングに関する特別授業を小グループで実施。(博士1年)

海外派遣教育: 欧米アジアの10校の国際協力校のほか、海外の企業に、1~3ヶ月程度の派遣。(博士2年)

企業研修教育: 「長期派遣型高度人材育成プログラム」を活用し、企業での実践的な研究活動を経験。(博士2年)

本教育プログラム



有望なM1を徹底選抜し、
4年間の博士特別養成コースで鍛え上げる

【主な実績】

- 大学院GPの採択前と採択後で、博士後期課程における、留学生や社会人学生の入学が増加(留学生17%→26%、社会人23%→43%)。
- 博士課程修了者の就職率が増加(76%→85%)。
- 経済的支援を充実(RA14人→59人)。

具体的な教育プログラムの例

○ 東北大学「理学の実践と応用を志す先端的科学者の養成」

新たな学問分野や急速な技術革新に対応できる幅広い実践力と応用力を持った「理学の実践と応用を志す先端的科学者」(フロンティア・サイエンティスト)を養成するため、3つのプログラムを総合的に実践。

- ①広域的学際性養成プログラム(修士1年～)
→専攻横断科目の履修や、英語による講義等を通じて、理学全般に対する幅広い理解力と科学英語力を養成。
- ②実践的研究能力養成プログラム(修士1年後半～)
→理学キャリアパス講座、海外サマースクール、海外企業へのインターンシップ等を通じて、科学的思考力を背景に、理学の社会への係わりへと展開できる実践力を養成。
- ③情報発信能力強化プログラム(博士1年～)
→英語論文作成指導、英語プレゼンテーション実践演習、学生によるセミナーの開催等を通じて、国内外への情報発信能力と、国際的リーダーシップ能力を養成。

【主な実績】

- 大学院GPの採択前と採択後で、博士課程修了者の就職率が増加(55%→94%)。
- 経済的支援を充実(TA214人→313人、RA187人→225人)。
- 博士後期課程学生の一人あたり学会・論文発表数の増加(学会2.0回→2.7回、論文0.6本→0.8本)

